
奥原弘人* マルバノキの新産地

H. OKUHARA : New Locality of *Disanthus cercidifolia* MAX.

マンサク科のマルバノキは花期が秋で紅葉と同時であること、前年の花から実の熟するのもその頃であること、ベニマンサクの別名の通り花が紅色であること、紅葉も極めて濃く美しいこと等、特徴ある植物の一つであり、その産地が信濃、尾張、美濃、越前、近江、安芸、土佐と限られた地域であるので他の地では珍しい木であるとされている。

信濃は分布の東端に当るわけであるが、それも伊那谷と木曾谷に限られている。伊那谷では飯田市西郊の風越山の中腹、清内路村、智里村等、木曾谷寄りの山地で見られ、木曾谷では中部と南部の山地で見られるが、その中でも木曾川から西側に多く、北向のいわゆる日陰山に群生しているのが普通である。木曾谷での、この灌木の北限は中部の福島町の西にある城山であるとされ天然記念物として県の指定を受けていた。私も木曾谷の調査に当っては特にその分布に注意してきたので、それを報告したい。先頃まで私は上記の城山から北西に続いている山地で城山から約3 kmの赤塩沢（新開村）までこの木が生えていることを知っていたが、何れにしても木曾川の西側では福島町の北部で北西から木曾川に合流する黒川から北では見られず、東部木曾山脈方面でも上記黒川の合流点の少し南で東から木曾川に合流する八沢川から北では見られなかつた。要するに木曾谷では上記木曾川の東西二支流が北の限界であると見られた。ところが1960年6月私はこの限界より北にその飛地を見つけた。それは木曾川の源流の一つである塩沢の谷（木祖村）である。この谷は木曾谷の北東隅で、東にある高さ300mばかりの尾根を越えれば信濃川上流の奈良井川が北に向って流れている。国鉄中央西線はこの分水嶺の下をトンネルで通っているが、こ

*長野県東筑摩郡本郷村大中565

の鳥居トンネルの西口の下を南に流れている小川が塩沢で、マルバノキはこの地点から北に約2 km溯つた所の右岸には小群をなし、左岸には点々と自生している。此処は北緯35° 58′, 東経137° 48′の地点で、これまで北限とされていた城山から16km北東にあり、全国的にはこれまで東限とされていた飯田市風越山と同経度であり、北の線では美濃、越前の北限地と大体同じであるから此処はマルバノキの分布の北東限とみられる。
